2 京都都市圏の活力向上に向けた職住

都市づくりの基本的な考え方

○京都市全体で活力の創造・循環構造を構築すること

経済社会の成熟化，地球規模化が進行する中で，京都市民が更に高い水準の生活文化を享受するためには，活力（人・モノ・情報・資金）が持続的に創造され，循環する仕組みを都市の中に内在させることが必要と考えられます。具体的には以下の３つの視点を持つことが重要と考えられます。

(視点1) 都心部と南部の連携

- 京都都市圏が全体として大きな存在感（需要創造力・顧客吸収力）を持ち，また，都心部と南部の両地区が個性を競い合いながら連携を図ること。

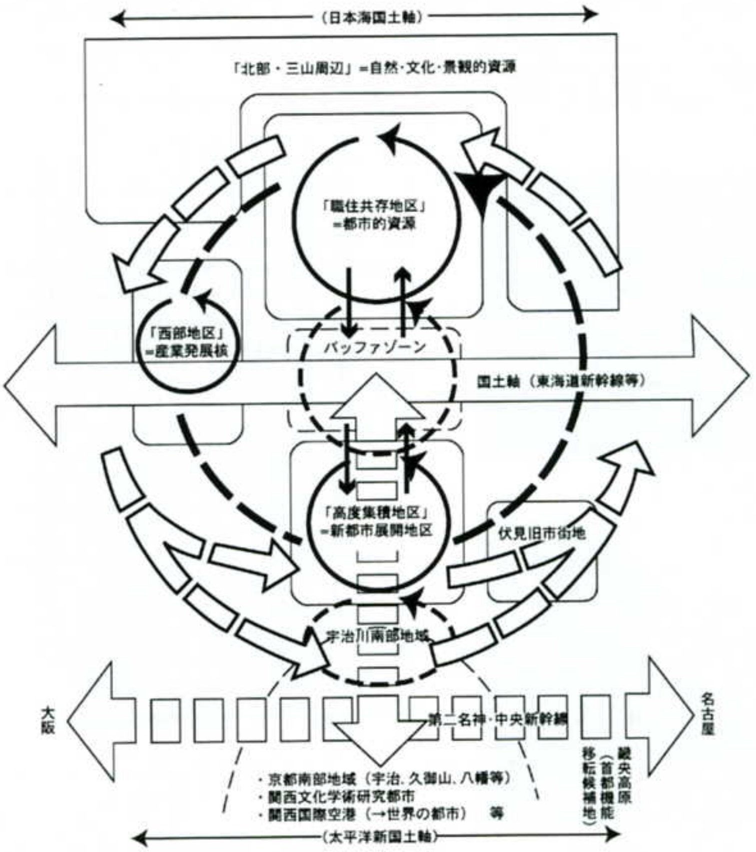
(視点2) 活力の内部連関系の構築

- 域内で創造された活力（人・モノ・情報・資金）が都市内で循環する仕組みをつくること。

(視点3) 外部活力の活用（広域ネットワークの視点）

- 京都市外から新たな活力を導入し，内部循環とともに内外両面からの活性化を図ること。

［図２］ 活力の創造・循環の地域展開イメージ



共存地区の役割と方向性

職住共存地区と高度集積地区の基本的役割

職住共存地区と高度集積地区の歴史的文脈や都市構造上の位置を踏まえると，両地区は，京都市全体が活力の創造・循環構造を構築するための先導的な役割を果たすことが必要と考えられます。

職住共存地区：都心再生の先導
高度集積地区：南部創造の先導
→ 京都市全体の活力の創造・循環の先導

職住共存地区の基本方向

以上の視点を踏まえ，職住共存地区は以下のようなまちづくりを展開していくべきと考えられます。

職住共存地区:「京都らしさ」を継承しつつ,「住み続ける」ことがくらしの価値の創造につながる京都の顔となる地域

<まちづくりの方向性>

・人々の根強い定住志向に応え，活発な交流と多様な生活文化の展開が豊かなくらしを支えるまちづくりを目指し，特色ある都心居住政策を推進

・多様な能力と高い職業意識を持った技術者・技能者など人材の存在，産業のインキュベーター(創業間もない有望な企業が育つ場所）の役割も期待される豊富な伝統的ストックの存在などの条件を生かし，伝統産業の機能更新や新しい21世紀の都心型産業の活力基盤づくりを推進

・町家をまちづくりの重要な資源として活用しつつ，都市活動による新陳代謝を促進し，町家と新たな建築物とが共存するまちなみの維持及び職住共存の存続基盤を一層充実

<職住共存地区の役割>

○産業資源・機会の提供
・都心産業から生まれた優れた知識・技術・情報の提供

○高度集積地区の新たな文化創造の支援
・都心部の歴史・文化ストックを南部の新たな文化創造に活用

<高度集積地区の役割>

○職住共存地区の特性発揮の支援
・職住共存地区における様々な制約により拡大が困難な都市機能，産業・商業機能の円滑な移転の受け皿となることにより，都心再生を目指す職住共存地区の特性の一層の発揮を支援

高度集積地区：「新しい京都」を創造し，世界標準に対応できる新たな都市機能集積の拠点となる地域